

■瓜生岩 慈善事業家。〈戊辰戦争〉〈磐梯山噴火〉〈日清戦争〉と、ことあるごとに、孤児等の救済に努めた。

うりゅういわ

シホ 小追放 1829= 陸奥国耶麻郡熱塩村(福島県耶麻郡熱塩加納村)に生まれた。通称岩子。父は渡辺利左衛門、母は瓜生りえ。

大塩平八郎乱1837= 8歳 :

適塾ホブシ 1838= 9歳 :

天保改革弾圧1842=13歳 : 夫に死別した上、火災で資産を失った母に連れられ、母の実家に帰る。以後母方の姓を称し、会津若松の叔母の家に預けられ、叔母の夫で会津藩の侍医の山内春瑠の薫陶をうけ、墮胎間引の防止に関心を持つ。

阿部正弘首座1845=16歳 : 佐瀬茂助を婿養子に迎え、会津城下に呉服店を開き、

..... 1847=18歳 :

1男3女をあげたが、

ペリー来航 1853=24歳 :

松下村塾 1856=27歳 :

桜田門外変 1860=31歳 :

生麦事件 1862=33歳 : 夫が死去すると、

8月18日政変 1863=34歳 : 喜多方に移り、社会事業に力を入れはじめる。

薩摩藩士密航1865=36歳 :

明治維新 1868=39歳 : *〈戊辰戦争〉の会津開城に際し、戦場より助けだした引取人の無い幼童を集め、小田付村に幼学校を設立して救済。また婦女子らに夜具蒲団・衣類・建具などを貸与し、さらに戦死者の施餓鬼を行なったので、

初の日刊新聞1870=41歳 : 民政局から褒賞。このころ乱暴掠奪の風を正し、戦死者の亡魂を祭り、墮胎棄児の蛮風を正し、仏法の興隆を謀り、国内の平穏を祈るという5つの目的のもとに会津地方に授戒会を起こす。

学問のすすめ1872=43歳 : *上京して、佐倉藩大塚十右衛門の創立した救養会所を訪ね、棄児・遺児・老病者の救済について教えを受け、帰郷して喜多方近郊の岩崎村長福寺で、墮胎防止や行旅病者の収容保護につくし、会津若松に産婆看護婦の養成所を開き、村役場や学校で産婆業務改善の講習会を催す。

明治6年政変 1873=44歳 :

佐賀の乱 1874=45歳 :

廃物利用に目をつけ、水飴製造法を改良して飴精からパンや精飴をつくることを考案し、指導普及に県下を回った。墮胎の習慣の矯正にも力を入れ、“仏の岩”と呼ばれるようになる。

明治14年政変1881=52歳 :

岩倉具視没 1883=54歳 :

授戒会や矯風演説会の影響によって、

国民之友始 1887=58歳 : *この前後には、この地方の墮胎の悪習があとを絶ったといわれる。12人の弟子を連れて福島に移り、

初の対等条約1888=59歳 : 磐梯山噴火による傷者を救済し、

帝国憲法発布1889=60歳 : 福島教育所を設置し窮民・孤児の救済に尽力。

帝国議会始 1890=61歳 : 大洪水には飴精利用法を發明して食料欠乏対策を講じ、

足尾鉞毒始 1891=62歳 : 再び上京し、帝国議会に婦人慈善章制定請願書を提出。東京市養育院幼童世話掛長となり、北会津・耶麻・河沼3郡に育児会を設置し、喜多方町に産婆看護婦養成所を設け、濃尾大震災にも慰問につとめる。

大本教 1892=63歳 : 土方久元宮相の夫人と謀って、{瓜生会}をつくり、事業の拡張につとめる。

郡司千島探検1893=64歳 : 棄貧児救済のため{福島鳳鳴会}を設立し、若松に産婆看護婦養成所ならびに私立濟世病院を創立。

日清戦争始 1894=65歳 : 〈日清戦争〉に際して上京し、根岸で水飴改良・飴精利用法の伝習所を開き、利益を傷病兵の救助にあて、

白馬会 1896=67歳 : 藍綬褒章を授与され、

八幡製鉄始 1897=68歳 : 没した。